



芸術家のご夫婦に花束を！
アリガトウゴザイマス。



そしてこれからもよろしく
オネガイシマス！

氏間 多伊子



朗読とドキュメンタリー映像と
ピアノ演奏の夕べ

東京のシアターX(カイ)で5月29日に開催された特別公演「朗読とドキュメンタリー映像とピアノ演奏の夕べ」。同じように新作能の台本の朗読会は3月にもあったのだが、そちらはやむなく断念した。

先月の「ポーランド映画セレクションII」にゲストとしてお越しくくださったドキュメンタリー監督チェホフスキ氏からワルシャワ公演「調律師—シヨパンの能」のご自身の作品DVD版を上映することもお聞きしていたので、今回こそ出かけようと思った。

まして、近々駐日大使の任期満了でご帰国されてしまうお二人なのだ。ロドヴィッチ大使には2010年2月のシェラトンホテル札幌で行われた「ポーランド・ディ in 札幌」でお会いしたのが、初めてだった。その

翌月には大使のご友人チェホフスキ監督がご来札され、3日間お伴してワークショップや映像素材の収集を楽しんだ(POLE 第67号 2頁掲載)。

それからまもなくである。お二人がご結婚されたというニュースが入ってきた。大使はチェホフスカさんになられたのだ！これには失礼を承知でいえば驚いた。そして感激した。その後しばらくして、大使館を訪問させていただき、映画祭へのおふたりのあたたかいご理解と過分のご支援を頂戴し、深く感謝している。

舞台の上での大使の凛としたお姿。黒留袖の反物でつくられたロングドレスをお召しになっていた。理念を貫かれる強さとしなやかさ。美しいお声とともにいつまでも心にとめておきたいと思った。大使は最後に「さよなら、そして、行ってきます」とご挨拶をされた。「じいーん」と胸が熱くなる。

その直後、私の隣席にいらしたチェホフスキ監督は、「来年また札幌(ポーランド映画セレクションIII<仮題>)に行くから、またね。そのときまで、バーイ！」と、ハグをしながら約束の言葉をくださった。あたり一面が急にまぶしい光に満たされたようになった。なんて明るい方なのだろう！

(うじま・たいこ)

大使(中央)と
年来のご友人霜田さん・筆者(右)



ネク
ホフ
スキ
監督
た



シヨパンへの
芸術的オマージュ

5月29日(火)19:30~
シアターX(カイ)

◆ 第一部

笠井賢一氏(演出家)のお話
記録映像(ワルシャワ公演)の上映
<ヴァルデマル・チェホフスキ氏>

◆ 第二部

新作能「調律師—シヨパンの能」の朗読
<ヤドヴィガ・ロドヴィッチ=チェホフスカ大使>
ピアノ演奏:霜浦陽子さん

新作能「調律師—シヨパンの能」は、ヤドヴィガ・ロドヴィッチ=チェホフスカ駐日ポーランド共和国特命全権大使の創作。シヨパンの亡霊とドラクロアのノアンでの出会いを描いた「調律師」は、2011年にワルシャワと日本で上演され、好評を博した。二つの国の芸術の伝統を大胆に結びつけた趣向が聴衆に大きな衝撃と感銘を与えた。今回は、ご自身によるポーランド語の朗読とワルシャワ公演のドキュメンタリー映像の上映、そしてシヨパンのピアノ曲の演奏。

3月5日に開催された、第2弾新作能『鎮魂』(2013年上映予定)のプレリユードとしての朗読会は、霜田副会長の報告を、第74号11頁に掲載しています。ご参照ください。